

次典

【誤解（ごかい）】「4階の上かつ6階の下の階」と解釈すること

（階を回（上→次、下→前）に置換えても「誤りとして」差し支えない）

【誤認（ごにん）】「4名様～6名様の間的人数」と認識すること

（用例：4～6名様のご予約において5名様のご来店＝事実5人）

【誤用（ごよう）】「御用だ・御用だ」と大きな声で「誤用」を指摘する様

【最中（さいちゅう）】今、正に最中（モナカ）を召し上がっている只中を表現したもの

【選択（せんたく）】数多の汚れた着衣の中から必要最小限の対象を拾い洗う様

【選曲（せんきょく）】お気に入りの1, 0 0 0曲の中から数曲を選ぶこと

（〇〇県第X区や棋戦の”せんきょく”とは意味が異なる）

【安全・安心（あんぜん・あんしん）】主語が「誰の」に主眼を置くとその主旨が明確に効り出され、語る当人も国民・都道府県民・区市町村民であるから「誰の」の範疇

【利便性の向上（りべんせいのこうじょう）】本来、発言者以外遍くその恩恵や便益が行き渡ることがあるべき姿であるが、どさくさに紛れて発言者も受益者に含まれてしまい、結局、発言者のみの「利便性の向上」に回帰することが隠された意図

【持続可能（じぞくかのう）】任期まで、もしくは定年間際の退職までの期間中に（良からぬ）不測の事態が起こらない状態を切望すること。業績とは無縁の自己保身のこと

【リスク】一般的に概ね先の見えない不安のこと。真のリスクとはそれを避けること

【リスク回避（りすくかいひ）】何もしないこと（全てが右肩上がりの好条件下のみに有効）もしくは結果として、意図せずより真のリスクへと近づいてしまうこと

【円滑化（えんかつか）】主に無用な衝突（コリジョン）を回避させる目的において、円滑化される対象以外を滞留（固定化）させることによる利己的便益の正当化

【緩やかな回復（ゆるやかなかいふく）】回復される対象以外およびその周辺による気付かない後退によって支えられるもの。回復される対象が抽象的となる傾向があり、具体性があるならば、回復を享受する対象そのものを示す。（利益の一極集中）

【地域活性化（ちいきかつせいか）】活性化すべき地域を恣意的に誤謬させ、本来活性化されるべき地域全てからの見えにくい搾取を美化した総称。所謂部分最適化

【地方創生（ちほうそうせい）】地方は黙って中央の言うままに「そうせい」の意

「地方創生計画、7割外注 交付金21億円、東京に還流」との見出しの新聞記事があった。地方独自の施策の策定は、結局中央からの「兵糧攻め」を被り無理となる。つまるところ、地方が中央の「食食物」となってしまうことを指し示すもの。